

技研の研究発表会に参加して

㈱カワムラサイクル開発課 杉原克明

私は4年ほど前より技術研究所主催による研究発表会や実習付きで開催される技術研修会等に参加させていただき、いつも有意義な情報を提供いただきありがとうございますと思っています。

本年度の研究発表会のテーマは車いす関係のテーマが3件、自転車関連の既存製品の分析、評価に関するテーマが4件、FRP関連が1件、光機能性皮膜の塗装に関するテーマが1件と、今なにかと話題のPL関連のテーマが1件と多種にわたっており、当社からは医療事業部、技術課、企画課よりそれぞれ参加となり、4名も参加させていただくこととなりました。

当日の会場は技研の大阪支所でありまして、午前中の車いすの発表時より多数の参加者があり、例年より会場が狭く感じられるほどであった。参加の動機としてはやはり発表テーマによるところが大きいと思われるので、今回は感心のあるテーマが多かったのではないのでしょうか。

それとも、困惑のこんな時代であるから、何かヒントを求めているのかもしれない。

当社では、医療事業部で車いす等を取り扱っており今後の高齢化社会において福祉機器は前向きに取り組んでいきたい部門の1つであり、技研の研究にも大いに期待しております。私自身は自転車の担当であり、福祉機器については詳しくないのであるが、今回のテーマの1つである補助動力付車いすの存在を知って改めて福祉機器においては障害者が使用するのに便利な物、楽しい物、と介助する者にとって便利な物、楽な物とに2分され、実は介助者に役立つの方が多種にわたり、必要性が高いと思われる車いすに乗って屋外を散歩したくても、女性の介助者1人では車いすに乗せることすらできない場合が多いのではないだろうか、とは言うものの我々の業界で考えると車輪の付いた乗り物がメインとなる。車いすについて常々思っているのであるがどうもイメージが暗いのである。やたら多くのパイプで構成されており暖かみがなく、楽しそうでない。私自身が障害者となって

しまっても、現在の車いすではしかたなく乗るだけであってとても乗りたいとは思えないのである。

車いすを購入する際にカッコイイとかデザインが良いからという選択ができるような物を早く出現させたいものである。次に、自転車関連の発表の中で、サスペンションホークの実走試験、ディスクホイール等の新しい車輪に関する評価、TIG溶接の強度等のような既存製品に対する数値的な分析、評価というのに感心が意外に高かったのではないだろうか。

専門雑誌ではすでに比較試乗記が伝えられ関心の高い項目となっている。通常技術研究所においては、立場上強度に関する研究発表が多いのであるが、今回は性能に関する比較評価の発表も含まれており、興味がありました。特にディスクホイール等の競技用車輪の特性評価においては、商品名も記載されておりOHPで写し出された結果を思わずメモを取ろうとしたのはきっと私だけではないでしょう。近年においてはこれらのような新機能部品が多く出現し、強度、性能に関するテストも我々メーカーとしても追い付かない場合があり、今後も新製品の評価において、タイムリで有意義な研究を行っていただくよう希望いたします。

最後の発表でありましたPL関連の研究においては、企業にとって重要課題であり、有益な研究として期待しております。PLについては製品の強度、性能に関するだけでなく、使う側の人間の理解度、特性または法的な事柄にまで研究の幅を広げていただくことが必要と思われます。今回のクイックリリースの調査においても実際に人間が操作する場合まで考え、中高年者や女性、子供まで実際に操作可能であるのかといった所までの研究をぜひ行っていただきたいと思います。

以上研究発表会を通して感じた事を独断で述べさせていただきました。今後さらに新しいテーマを広げ有意義な研究が行われることを期待いたしております。

◎通学用自転車の二人乗りの危険性を実証!!

当所では、7月21日～27日の期間、気温36度を超す猛暑の中、所内のコースを使用して自転車の安全乗用のための技術データを実験解析するため、二人乗り、傘さし運転などの諸実験を高校生2人の協力を得て実施した。

